日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町65
電話 03（5228）3171 FAX 03（5228）3175
発行者 総主事 司祭 三鍋 裕

北海道の大地に学んだこと

管区事務所総主事　司祭 ローレンス 三鍋　裕

5月11日から3日間、北海道教区にお招きいただいてお邪魔しました。水仙、ラッパ水仙、チューリップと桜が一度に咲いていました。春の合図で順番構わず一斉に咲き出したようです。北海道のよさは冬にあるとも聞きますが、やはり春は喜びの季節です。

随分と欲張った3日間でした。教区教役者会、教区礼拝、室蘭での主日礼拝、有珠訪問。他の教区に比べて広い地域ですから、同労者が集う機会も少ないことでしょう。和気藹々でした。豊かな社会経験を経てから、あるいは社会で活躍しながら聖職を務めておられる方が少なくありません。もっと時間があったら色々と伺えたことでしょう。

教区礼拝も賑やかなこと。あの広い地域から、ほとんど全教会が参加。現在受聖餐者千人程の教区で、子どもを入れてですが3百人以上集まられるのです。子どもと言えば聖ミカエル教会の子ども聖歌隊の見事なこと。多くの教会では日曜学校が休眠に近いのに、子どもを集めて聖歌隊まで作っているのですから見事です。礼拝後は各教会のミニバザー。資金獲得のためといっても、タイのバーンサバイ（エイズの患者さん支援）のため、インドにおける女性の地位向上ため、ベトナムの児童養護施設のためなど、他のお国で困難の中にある人々を憶えてのお店が目立ちます。古くから「良きサマリヤ運動」の伝統があるからでしょうか。教役者の不足など色々な難しさもあるはずですが、とにかく元気の良い教区とお見受けしました。

13日の主日礼拝は室蘭の教会をお手伝いさせていただきました。室蘭にお邪魔するのは初めてですが、古くからの港町ですので幼いころから港の名前は聞かされていました。街の人口は減っているそうですし、教会員の数も減ったそうです。礼拝出席者は平均10人でしょうか。司祭が来ない日曜日もお弁当持参で集まり、朝の礼拝を守り、午後はお仕事会だそうです。少ない人数でもしっかりチャントを歌われます。管理

□会議・プログラム等予定

（前回報告以降追加
および5月25日以降）

5月

24日（木）年金資金運用管理チーム（東京教区事務所）
28日（月）～29日（火）文書保管委員会

6月

6日（水）礼拝委員会（聖歌関係）
6日（水）財政主査会
10日（日）青年委員会
11日（月）主事会議
13日（水）宣教150年記念礼拝実行委員会
18日（月）教区制改革委員会
19日（火）～21日（木）主教会（東京、ナザレ修女会）
22日（金）～25日（月）沖縄のたび
25日（月）～26日（火）文書保管委員会
25日（月）ウィリアムズ主教記念基金基金委員会（立教大学）
26日（火）収益事業委員会
30日（土）正義と平和・ジェンダープロジェクト（京都教区センター）

7月

5日（木）神学教理委員会
9日（月）正義と平和委員会
10日（火）主事会議
12日（木）常議員会
18日（水）渉外主査会
18日（水）聖公会／ルーテル教会協議会
19日（木）法規委員会
23日（月）聖公会／ローマカトリック教会合同委員会
23日（月）～24日（火）文書保管委員会
25日（水）年金の将来を検討する特別委員会

＜関係諸団体会議等＞

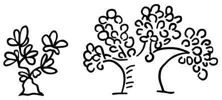
6月

13日（水）～14日（木）日本聖公会婦人会総会（京都教区センター）
13日（水）日本キリスト教連合会常任委員会
14日（木）聖公会生野センター理事会

司祭のご努力もありますが、日本聖公会の多くの教会がそうですが、信徒が力を合わせて教会を守っておられるのです。新しい聖地旅行を考える会の報告会が丁寧になされているのでしょう。パレスチナのことが話題になっていました。「ユダヤ人の人も大変な苦労をしたのだから、パレスチナ人の苦労も分かって上げて欲しいねえ」。大きな声ではありませんが、やさしさを感じさせる声でした。雨の中を景勝地、室蘭八景をご案内いただきました。天気の良い日にまたおいで、といわれているようでした。

札幌から室蘭と有珠聖公会を管理しておられる雨宮司祭ご夫妻のご厚意で有珠にお連れいただきました。バチラー夫妻のアイヌ伝道のことはあまり詳しく知りませんでしたが、前日に雨宮司祭から2冊の本をお借りして大急ぎの事前学習。70年前に建てられた石造りのバチラー夫妻記念聖堂があります。以前は多かったのでしょうが、ここも今は10人くらいの会衆だそうです。バチラー博士は、伝道者として偉大でしたが、アイヌ語の研究者としても偉大でした。アイヌ語には文字がないので、耳で聞いて辞書を作ることから始まる大変な仕事です。私は世界中が一つの言語になればどんなに便利だろうと思ったことがありますが、それでは言語を用いる文化は消滅してしまいます。アイヌの人々は西洋人には受け入れられたのに、「和人」からは強い差別を受けました。どの差別も同じですが、差別される側の痛みは「気が付かなかった」では済まされませんし、アイヌの人々に対する差別は過去の問題と言う訳ではありません。バチラー博士はアイヌ固有の言語と文化を守るように勧めましたが、差別の厳しさと国策のゆえに次第に同化させられアイヌ語とアイヌ文化は消えつつあります。何か寂しい気が致します。多数者、強者が少数者・弱者の言語と文化を追い詰めたのではないでしょうか。言語が違えば不便ではあります。でも複数の言語を持つ国は幾つもあります。無論試したわけではありませんが、南アフリカでも公衆電話で5種類の言語でオペレーターと話せます。生まれたときに聞いたやさしい言語、その中で育ったそれぞれの文化をお互いに尊重することは出来ないのでしょうか。

現在の日本にも考えるべきことがあります。日本で働く外国人労働者の家庭から日本語の出来ない児童・生徒が2万人も日本の学校に通っています。日本語のサポートをし、日本語さえマスターしてくれれば良いというのとは違うのではないでしょうか。彼らが持っている言語・文化を尊重しながら一緒に生きていく素晴らしさを私たちは大切にしたいのです。キリスト教だって長く少数者でした。多数者になったときに誤りも出てきました。少数者が持っている、少数者だけが持っている素晴らしいものを尊重する豊かさを求めたいと思います。



□主事会議

第56（定期）総会期第9回 5月2日（水）

主な協議

1. 聖公会センター緊急時のエレベーター発電装置について
2. 『ハラスメント防止のガイドライン』の配布方法について
3. 『日本聖公会聖歌集』A6判の印刷について
   資金的および編集上の理由から、当面新しい企画は考えないこととする。
4. 正義と平和委員会・憲法プロジェクト予算について
   宣教主事が予算案を作成する。

5. 管区事務所主事・職員の研修参加について
管区の諸研修会に主事・職員が参加するよう勧め予算措置をとることとした。
6. 2006年管区一般会計決算（案）について
7. 教役者遺児教育基金奨学金の改定について
教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会より奨学金の改定決定について報告を受けた。

次回以降の会議
6月11日（月）、7月10日（火）

◇海外出張

・エピスコパル・アジアメリカ・ミニストリー（6/27〜7/3、ロス・アンジェルス）三鍋総主事

□各教区

北関東

・新聖歌集を学ぶ会 6月16日（土）10時半 大宮聖愛教会 講師：管区礼拝委員会加藤啓子姉ほか

東京

・東京教区「じんけん週間」プログラム『隣人に聴く性同一性しょうがい』6月2日（土）14時 聖愛教会 お話・虎井まさ衛（作家、立教大学・千葉大学非常勤講師）主催：東京教区人権委員会
・2007年度第2回東京教区正義と平和協議会 沖縄慰霊の日を覚えて「今、沖縄の問いかけるもの　未来への証言」6月16日（土）14時 東京教区会館3階会議室 講師：谷昌二主教（沖縄教区） ビデオ上映『未来への証言』

中部

・豊橋昇天教会創立110周年記念礼拝 5月27日（日・聖霊降臨日）

大阪

・聖職按手式 6月16日（土）10時半 大阪教区主教座聖堂（川口基督教会）執事按手 志願者：聖職候補生アンデレ田宮紘 司祭按手 志願者：執事ヤコブ松平功

神戸

・広島平和礼拝2007 —ともに学び、行動し、祈ろう 8月5日（日）〜6日（月）
場所：広島復活教会〜平和公園〜カトリック平和記念聖堂 プログラム：5日（日）10時半 平和礼拝（司式・中村豊主教 説教・五十嵐正司主教） 15時 平和の学び（講師・五十嵐正司主教） 17時「平和行進」「平和祈願ミサ」参加　6日（月）6時半「諸宗教祈りの集い」8時「平和記念式典」参加、原爆資料館・記念碑巡り・分かち合いなど 申込締切：7月15日 問い合せ：広島平和礼拝実行委員会事務局（広島復活教会内）広島平和礼拝ホームページ http://www.hrc-nskk.jp/hpps2007/

†逝去者

霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

マリヤ・マグダレン神埼ゆき（元伝道師、横浜・九州）
2007年4月23日（月）逝去（101歳）

司祭 ヨハネ堀之内孝夫（九州教区・退職）
2007年5月2日（水）逝去（86歳）

《人　事》

北海道教区

パウロ内海信武　2007年4月25日付　日本聖公会聖職候補生に認可する。

東京教区

司祭 シモン・ペテロ上田憲明　2007年4月1日付　聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂チャプレン任命

聖職候補生 マッテア大森明彦2007年4月1日付　聖公会八王子幼稚園チャプレン補佐任命

＜信徒奉事者認可および分餐奉仕許可＞
　2007年4月1日付

（神愛教会）　北村アイリーン、渡辺定夫、渡辺康弘
（東京聖三一教会）　五十嵐美奈、後藤務、砂田郁郎、中野誠、村上道夫、矢野敬子、湯田正範
（聖マーガレット教会）　足立征三郎、小貫岩夫、梶山順子、福澤真紀子、三崎肇、元津毅
（聖マルコ教会）　浅見国貴、戸川達男、中村真希、松本尚夫

横浜教区

司祭 清家智光　2007年4月10日付　エリザベス・サンダースホームチャプレンの任を解く。（聖ステパノ学園チャプレンは継続）

執事 アンデレ村松宣夫　2007年4月10日付　安房大貫キリスト教会嘱託勤務の任を解く。

＜信徒奉事者認可＞　2007年3月13日付
（林間聖バルナバ教会）　小平 基

大阪教区

司祭 ヨハネ藤江幸雄　2007年5月1日付　尼崎聖ステパノ教会副牧師の任を解き、主教座聖堂付きの任を命じる。

司祭 テモテ名出 望（退）　2007年5月1日付　大阪城南キリスト教会における嘱託としての勤務を解く。

司祭 ヨハネ山根貞夫（退）　2007年5月1日付　大阪城南キリスト教会における嘱託としての勤務を解く。

神戸教区

＜信徒奉事者認可＞　2007年4月1日付
（広島復活教会信徒）ヨシュア後藤邦明
（徳山聖マリア教会）　エリザベツ白銀昭子、ダビデ末永聡、ピレモン西田史郎

沖縄教区

執事 モニカ石原絹子　2007年4月15日付　教区事務所並びに三原聖ペテロ聖パウロ教会勤務を解き、首里聖アンデレ教会において谷昌二主教管理のもとで、牧師補として勤務することを命じる。

＜信徒奉事者認可＞
（三原聖ペテロ聖パウロ教会）トマス安慶田剛、アンデレ宮本盛彦、アブラハム下地薫
（首里聖アンデレ教会）クリストファー大倉信彦
（小禄聖マタイ教会）　アブラハム新垣晶市
（島袋諸聖徒教会）　マタイ真喜屋明、ジェローム並里厚、ルシア並里輝枝

（北谷諸魂教会） John King、Andrew Beckwith、BK Hammer、Keweda Sinclair、
Chris & Sarah Samuels、Michael & Jodi Burks、Mary Beth Logue、Jason Kneeland

《移　動》

平取聖公会（北海道）　電話・FAX番号変更 01457-2-2645（電話・FAX共用）
軽井沢ショー記念礼拝堂（中部）住所訂正
389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢57-1

《訂　正》

前号（第216号）p.6に誤りがありました。
北見聖ヤコブ教会　FAX番号（正）0157-23-6586（電話共用）
名古屋聖マタイ教会　FAX番号（正）052-841-5795（FAX専用回線）

第6回人権担当者協議会報告

司祭 バルトロマイ三浦恒久（管区人権担当者）

と き； 2007年4月24日（火）～26日（木）
ところ；カトリック川越教会内
研修センター「ミカエルの家」
日本聖公会川越キリスト教会

初心に帰って

「中川差別発言」総括報告書が発行されて、もうすぐ10年になります。この報告書の中に《主教会報告》があり、今後の取り組みについての決意として、6項目が掲げられています。その第2項目目に各教区に人権問題担当者を置くことと、それぞれの地域特有の差別事象、人権問題を取り上げることが提案され、また、第5項目目には、部落差別にもとづく、冤罪事件としての「狭山事件」の犯人とされた、石川一雄さんの再審請求の運動に参加することが、呼びかけられています。

このような提案、呼びかけを踏まえて、今回の協議会のプログラムが設定されました。わたしたちは絶えず初心に帰り、足元をしっかりと見つめ直さなければならないと思います。

元牧師による性的虐待事件への関心

第1日目の最初のセッションは、「教会におけるハラスメントを防止するために」と題して、山野繁子司祭（女性に関する課題の担当）よりお話をしていただきました。2006年5月に開催された第56（定期）総会で、「セクシュアル・ハラスメント防止機関ならびに相談窓口設置のためのモデルを策定する件」が可決され、これに基づいて管区ではモデル案策定のための作業を続け、今年の3月にモデル案が各教区に提示されました。

今回の山野司祭のお話は、このモデル案のポイントについての詳しい説明でした。㈰ハラスメントの定義、㈪さまざまな形態を持つハラスメ

ント、㈫ハラスメント相談窓口、㈬ハラスメント防止委員会などについて、理解を深めました。

わたしたちはこのような取り組みを通して、すべての人が神から与えられた交わりを回復するよう促されている、ということを知ることができます。ひとりひとりが痛みや抑圧から解放され、人間として尊重されることの大切さを知ることができます。

しかし、現実には、京都教区で起こった元牧師による性的虐待事件による被害者は、今もまだ癒されてはいません。そこで、山野司祭のお話の後で、京都教区の人権担当者井田泉司祭から事件の経緯を詳しく説明していただき、分かち合いの時を持ちました。参加者のこの事件に対する関心がかなり高く、最初のセッションだけでは時間が足らず、第2日目の自由時間をこれに当てるほどでした。

狭山事件は過去の出来事ではない

第2日目のセッションは、狭山事件について学習しました。管区人権担当者鈴木慰さんに事件現場を案内していただき、事件のあらましを学ぶ一方、当局がこの事件に対して、いかにずさんな事実調べしかしてこなかったかが分かりました。

その後、この事件の犯人とされている石川一雄さん（現在仮釈放中）と妻早智子さんにお会いする機会を得、お話をお聞きすることができました。お二人は、とにかくきちんと事実調べをしてほしいと、口を揃えて訴えておられました。狭山事件は40数年前の過去の出来事ではなく、今のわたしたちの課題とし、わたしたちも再審開始を求める署名に協力しようと決意しました。

人権担当者協議会の今後

今回の協議会は、10教区から15名が参加し、各教区の現状と課題を分かち合うセッションもありました。第3日目の振り返りでは、参加者の中から、このような協議会を年2回してほしいという意見が出されました。すなわち、1回は今回のように、2泊3日の研修を含めた集まりであり、もう1回は京都教区での事件のような、人権問題や差別問題に関わる具体的な事象をお互いに分かち合う1泊2日の集まりです。これに対しては、みんなが賛成のようでした。人権担当者協議会の今後の方向性が見えてきたような気がして、うれしく思いました。

統一協会による被害を防ぐための連帯

―「統一協会問題についての日韓フォーラム」報告―

司祭 木村 直樹（管区宣教主査）

はじめに

4月17日から20日まで、韓国全羅南道（チョルラナムド）の麗水（ヨス）市で開かれた「統一協会問題についての日韓教会フォーラム」に参加したので、その報告をします。日本側の名称は上記のとおりですが、韓国側は「日韓教会連合 異端似而非対策セミナー」となっていました。日韓の統一協会問題の意識の差が、この名称の違いに現れているように思います。つまり、日本側は統一協会の霊感商法を、韓国側は統一協会の異端性を問題にしているということです。

「聖地」である麗水

麗水は、釜山（プサン）から車で2時間半ほど西に行った港町です。瀬戸内海のように多くの島が浮かぶ風光明媚な土地で、2012年の海洋万博に

立候補しています。

この地は、韓国では、観光地というより、キリスト教の殉教者を生んだ聖地として有名とのことです。かつて麗水郊外にハンセン病の療養施設・愛養園があり、1939年にその教会に赴任した孫良源（ソンヤンウォン）牧師は、植民地時代に神社参拝に反対して投獄され、解放後の混乱の中で、共産勢力の反乱によって、二人の息子が殺されてしまいます。犯人は捕まりますが、孫牧師はその犯人を養子に迎えます。そして朝鮮戦争のとき共産軍によって銃殺されてしまうのです。彼の生涯は「愛の原子爆弾」と呼ばれて、韓国全土に大きな影響を与え、地元の麗水では、30万人の人口に対して、10万人がキリスト者となっているほどです。

統一協会の麗水進出

このフォーラムで、卓志一（タクチイル）教授（釜山長老神学大・異端似而非対策委専門委員）は、統一協会が、彼らの地上天国を実現するため、世界各地に彼らの聖地なるものを建設していると発題しました。本年4月、パラグアイで起きた統一協会日本人幹部誘拐事件も、彼らの聖地での出来事です。統一協会は、世界各地の未開発地域の土地を買占め、始めは住民を懐柔するために福祉活動を行い、その後、彼らを排除してゆくというのです。

そして統一協会は、麗水も勝手に自分たちの聖地と定め、300万坪の土地を取得して、そこにゴルフ場、ホテル、カジノ、その他のレジャー施設の建設を計画しています。その投資額は、今後10年で2000億円になるということです。ちなみに統一協会の教祖・文鮮明（ムンソンミョン）の趣味は釣りとのことで、彼は頻繁に麗水を訪れ、釣りを楽しんでいるそうです。

霊感商法による被害

一方日本側は、統一協会の霊感商法による被害を訴えました。この問題に取り組んでいる全国霊感商法対策弁護士会の調べによれば、2006年に被害を訴えた人々の被害額が40億円、前年に比べて10億円以上も増えているとのことです。彼らが多額の資金を必要としている現状がうかがわれます。

1987年以降、現在に至るまでの霊感商法の被害総額は1000億円になります。これはあくまでも被害を訴えた人々の金額であり、訴えない人々も含めれば、統一協会へ流れた金がいくらになるのか想像もつきません。この日本から送られた豊富な資金によって、統一協会は、麗水も含めた各地の聖地建設を行っているのです。

麗水のキリスト者の戦い

麗水の万博召致に伴う会場整備と開発に統一協会は名乗りを上げました。これに対して、聖地のキリスト者であるとの自覚を持つ地元キリスト教会は反対運動を起こし、ついにキリスト教会が推薦する市長が当選しました。しかし統一協会側は、地元の新聞を買収して世論の操作を目論んでいます。また麗水の海産物加工工場も買収したといいます。思えば珍味の販売は、日本の統一協会の大事な資金源です。

麗水のキリスト者は、今、統一協会と戦っています。そして日本の教会の支援を求めています。日韓両教会は、統一協会によるおのおのの被害を防ぐために、連帯してゆく必要があるのです。

■ 日本聖公会各教区報のなかから ■■■

教会に生きる小さき群れ

中部教区報『ともしび』第404号
東北教区報『あけぼの』第94巻第4号
北海道教区報『北海之光』第574号

1.飯山復活教会（中部教区）

飯山復活教会には、四半世紀以上定住司祭は与えられておりません。その間、小布施、長野、稲荷山、そして上田から教役者が来られ、「伝道の灯」は燈されてきました。

私たちの群れは、まさしく小さく、経済的にも豊かとは言えません。しかし、メンバーのほとんどがキリスト者としての親の背中を見ながら、信仰を継承してきた心の豊かな確固たる信仰の持ち主です。

今日、教会を取り巻く状況は、非常に厳しい環境にありますが、この世にあって、「聖餐式」を通して、主イエス様を大胆に指し示してゆくことが、「宣教」であると思います。

今、当教会は、厳しい冬の時代にありますが、やがて、いつの日にか、定住の司祭が与えられる「復活」の春を待ち望んで、主日に集い、励まし合い、強めあっております。

（司祭 テモテ 島田公博）

2.釜石神愛教会（東北教区）

今年の市内三教会の合同礼拝は、大斎節第3主日の3月11日に当教会を会場に行なわれました。カトリック釜石教会、新生釜石教会（日本キリスト教団）の信徒さんたちと一緒に、加藤主教と小野司祭から聖餐にあずかりました。三教会の共通の悩みは、やはり「信徒の高齢化」でした。その中で、84歳を迎えるカトリックのエンデレル神父がニコニコと微笑んでおられる姿が印象的でした。また、教団の太田牧師の異動もあり、送別会を兼ねた茶話会が今年も行なわれました。

当教会においては、小野司祭が昨年12月に心筋梗塞で緊急入院されました。自宅療養後2月には復帰されましたが、保育園の子どもたちに抱きつかれたり引っ張り回されることが多く、なかなか体は休まらないかもしれません。しかし、小野司祭にとても親しんだ年長の21名も無事卒園し、4月2日からまた新しい子どもたちとの賑やかな生活が始まっています。感謝

（高橋仁美）

3.北見聖ヤコブ教会（北海道教区）

復活前週、キリストのご受難を物語る聖画を礼拝堂のレールの上に掲げ、主のご受難をしのび、道行きのお祈りを捧げました。

暖かな春を迎えました。復活日も29日の主教巡回日も、礼拝後は共に手作りの茶菓でお祝いし楽しい時を過ごしました。礼拝の中で幼子が信施皿を持って来る姿は春の日ざしよりも暖かな感じです。当教会では茶菓だけではなく、十字架や小祭壇や聖布等も手作りです。窓の雪囲いも外され台所が明るくなりました。春ですね！

4.今金（いまがね）インマヌエル教会（北海道教区）

4月11日、教会暦から少し遅れて復活日の礼拝を守る。聖堂を囲むように繋っている木々にも、春の新しい命の輝きが見え始めています。

22日は、主教様ご夫妻をお迎えしての聖餐式を、種の祝福と併せて執り行いました。礼拝後は「寿の家」に場所を変えて愛餐会。このところ定番となったヒグマの目撃談に花が咲きます。

秋の豊かな収穫を願いつつ、本格的な春の農作業が始まっています。作業の安全と、何よりも健康が守られますように、祈りを深めております。